



# 生活者ネットワーク

## 本西みつえ 伊藤ひとみ



### 政策ゼミ テーマは「ごみ問題」

江戸川ネットの「政策ゼミ」では、市民と調査をしながら共に学び、質問をつくり、本会議での質問につなげています。

### プラスチックごみの削減について

海洋汚染の原因となり、近年世界中で問題になっているプラスチックごみに焦点をあてました。レジ袋をはじめプラスチック製品は、その使いやすさから私たちの生活にはなくてはならないものになっていますが、分別が正しくなかったり、ポイ捨てされたり、分別しても風に飛ばされてしまうこともあり、結果的に環境汚染を引き起こしています。今年7月、プラスチック製品の象徴であるレジ袋が、原則有料化されました。私たちが毎年大手スーパーで行っている「レジ袋辞退率調査」でも、昨年は27%だった辞退率が今年は(7月以降)73%に増加しています。

使い捨てのライフスタイルを見直す時期に来ています。政策ゼミでは、ワンウェイプラスチックの使用を中止することが急務であると考え、プラスチックごみの削減に特化した検討会の設置や清掃活動を見える化するアプリの活用、若者の感性で作られる動画コンテスト、デポジットの工夫などが提案されました。

江戸川区には「Edogawa ごみダイエツプラン」があり、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を提唱しています。資源ごみの削減は、2021年度までに30%が目標ですが、ごみから資源への分別の徹底や、ごみの削減がなかなか進んでいないのが現状です。江戸川区の現状と対策について質問しました。

**質問** 「プラスチックごみゼロ宣言」を行ってはどうか。

**答弁** 現時点で宣言をする計画はない。容器包装プラスチックの回収、3Rは進めていく。

**質問** プラスチックごみの削減に特化した検討会をつくることはどうか。

**答弁** 廃棄物削減等推進協議会で幅広く取り組んでいく。

**質問** ごみ拾いのアプリの活用や高校生・専門学校生などの若い人たちの感性で、発信する動画でコンテストを開催するなどの啓発活動の導入についての考えを。

**答弁** 今まで行ってきた啓発にとらわれずに、新たな手法も試みていきたい。



### 「食品ロス」をゼロに！

本来食べられるのに捨てられている食品を「食品ロス」と言います。2019年度の「江戸川区家庭ごみ組成分析調査報告書」を見ると、可燃ごみの中の約32%は生ごみで、そのうちの未利用品と使い残しを合わせると約20%にもなります。「食品ロス」は、家庭からだけでなく、外食産業、食品製造業やコンビニ、スーパーなどの小売業からも出されています。

「食品ロス」をなくすために「フードバンク(企業や農家から食べられるのに余っている食品を寄贈してもらい、必要としている人に届ける活動や団体)」と「フードドライブ(家

庭で余っている食べ物を持ち寄り集めて、地域の福祉団体やフードバンク等へ寄付すること)」があります。どちらも必要とする家庭に提供することは同じです。区内全域で行えるようにすること、子どもたちも含め、誰もが理解できるような方法と仕組みを提案しました。

**質問** フードバンク、フードドライブの仕組みの構築に「なごみの家」や商店会、区内事業者との連携を。

**答弁** 関係部署を取り込んで、検討しているところ。

**質問** 学校教育で、給食時を使った食育に、食品ロスというテーマも組み入れてはどうか。

**答弁** 各学校、工夫をしながら進めている。様々に趣向をこらしながら指導に努めていく。